

# 論文内容要旨

論文題目

Trends in coronary risk factors among patients with acute myocardial infarction over the last decade

The Yamagata AMI Registry Study

(急性心筋梗塞患者における冠動脈危険因子の変遷)

責任分野：循環・呼吸・腎臓内科学分野

氏名： 西山 悟史

【内容要旨】(1,200字以内)

## 背景

虚血性心疾患は世界的に増加しており、日本においても第二位の死亡原因となった。急性心筋梗塞は治療の発達に伴い急性期死亡率が減少したが、人口の高齢化などより増加の一途を辿っている。食生活の欧米化や運動不足による糖尿病、高血圧、肥満、脂質代謝異常などが、その要因と考えられている。山形県は、人口当たりの急性心筋梗塞発症率が最も高い県である。そこで我々は平成5年より山形県急性心筋梗塞発症登録事業を設立した。本研究は、平成5年より平成18年まで継続して登録された急性心筋梗塞患者のデータを用い、冠危険因子の変化および心筋梗塞発症率を解析し、山形県の心筋梗塞発症を減少させる戦略を提言することである。

## 方法・結果

平成5年より平成18年の間に、山形県医師会に所属する全医療機関より、4,790名の初発の急性心筋梗塞患者が登録された。危険因子の変化を調査するため、14年間を3期に分けて検討した(1期,平成5-9年,2期,平成10-14年,3期,平成15-18年)。

男性の心筋梗塞発症数は増加していたが、女性の発症数には変化がなかった。また男女とも年齢調整発症率には有意差がなかった。年齢を3群に分けて検討すると、若年男性(<65歳)で、心筋梗塞の発症率上昇を認めた。冠動脈危険因子では、若年男性で、高血圧、糖尿病の有病率が増加し、BMI (body mass index)と中性脂肪値が上昇していた(高血圧:1期,39%.2期,47%.3期,50%. $P=0.0037$ .糖尿病:1期,24%.2期,24%.3期,32%. $P=0.0131$ .BMI:1期, $24.1\pm 3.1$ .2期, $24.2\pm 3.2$ .3期, $25.0\pm 3.5$ . $P=0.0006$ .中性脂肪:1期, $122.7\pm 79.9$ .2期, $136.8\pm 88.9$ .3期, $148.4\pm 107.9$ . $P=0.0005$ .)。女性では後期高齢者( $\geq 75$ 歳)で糖尿病の増加を認めた。一方、男女とも家族歴を有する患者が減少しており、遺伝的背景より、生活習慣の影響が強まっていることが示唆された。男性では以前として喫煙率が高く、特に若年男性では喫煙率が70%台であった。さらに男性、特に若年男性患者ではメタボリックシンドロームを有する割合が増加していた。

## 結論

女性患者では、冠危険因子に対する治療が男性より普及しているが、十分ではなく、心筋梗塞発症率減少には至っていなかった。男性では冠危険因子の治療が著しく不十分で、さらに若年層ではメタボリックシンドロームの危険因子も加わり、心筋梗塞発症率はむしろ増加していた。より積極的な生活習慣病およびメタボリック症候群に対する治療の普及が必要である。

平成 21 年 1 月 30 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

## 学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 西山 悟史

論文題目： 急性心筋梗塞患者における冠動脈危険因子の変遷

論文審査委員：

主審査員 川前 金幸

副審査員 小崎 健太郎

副審査員 加藤 丈夫

審査終了日：平成 21 年 1 月 27 日

### 【論文審査結果要旨】

本研究は、平成 5 年より平成 18 年まで継続して登録された急性心筋梗塞患者のデータを用い、心筋梗塞発症率および冠危険因子の変化について検討した。

対象は、平成 5 年より平成 18 年の間に、山形県医師会に所属する全医療機関より、4,790 名の初発の急性心筋梗塞患者である。危険因子の変化を調査するため、14 年間を 1 期、平成 5-9 年、2 期、平成 10-14 年、3 期、平成 15-18 年と 3 期に分けて検討した。

結果、男性の心筋梗塞発症数は増加していたが、女性の発症数には変化がなかった。また男女とも年齢調整発症率には有意差がなかった。年齢を 3 群に分けて検討すると、若年男性(<65 歳)で、心筋梗塞の発症率上昇を認めた。冠動脈危険因子では、若年男性で、高血圧、糖尿病の有病率が増加し、BMI (body mass index)と中性脂肪値が上昇していた(高血圧: 1 期, 39%. 2 期, 47%. 3 期, 50%.  $P=0.0037$ . 糖尿病: 1 期, 24%. 2 期, 24%. 3 期, 32%.  $P=0.0131$ . BMI: 1 期,  $24.1 \pm 3.1$ . 2 期,  $24.2 \pm 3.2$ . 3 期,  $25.0 \pm 3.5$ .  $P=0.0006$ . 中性脂肪: 1 期,  $122.7 \pm 79.9$ . 2 期,  $136.8 \pm 88.9$ . 3 期,  $148.4 \pm 107.9$ .  $P=0.0005$ .)。女性では後期高齢者( $\geq 75$  歳)で糖尿病の増加を認めた。一方、男女とも家族歴を有する患者が減少しており、遺伝的背景より、生活習慣の影響が強まっていることが示唆された。男性では依然として喫煙率が高く、特に若年男性では喫煙率が 70%台であった。さらに男性、特に若年男性患者ではメタボリックシンドロームを有する割合が増加していた。

結論として、女性患者では、冠危険因子に対する治療が男性より普及しているが、十分ではなく、心筋梗塞発症率減少には至っていなかった。男性では冠危険因子の治療が著しく不十分で、さらに若年層ではメタボリックシンドロームの危険因子も加わり、心筋梗塞発症率はむしろ増加していた。上記の結果から、より積極的な生活習慣病およびメタボリック症候群に対する治療普及の重要性を述べた。

本論文は、心筋梗塞発症の危険因子の変遷を検討し、生活習慣病、メタボリックシンドローム等の治療の重要性を多くの臨床データを下に指摘した臨床的に重要な論文であり、学位論文に値すると判断します。